英文の読み方を考えるⅨ
—法とモダリティーの理解に向けて①—

平井 正朗

大学入試、特に国公立大学の二次試験における読解総合問題では、正確な文構造解析に基づき、文やパラグラフの結成性(cohesion)を把握する「読解力」を測定するのと同時に、背景知識を活用して主題にアプローチする論理的思考力(logical thinking process)が要求される。従来の問題文下線部翻訳、指示語説明、要約、内容一致、空所補充など、ヴァリエーションに富んだものになっている。仮定法のジャンルでは、法の識別が合否のキャスティング・ポイントになることは言うまでもなく、本稿ではそこでスポットを当てる。

（01）When Mum caught us doing something wrong — smoking, skipping class — her best weapon was always, "If I catch you again, I'll tell your father." She never caught us again. And if we ever did end up getting a good scolding from him, we turned to her for comfort. "Does Dad really love me?" I'd ask.

（名古屋大）(私たちが何か悪いこと—たばこを吸ったり、授業をさぼったり—しているのを見つけると、母の最高の武器はいつも「もう一度見るたび、お父さんに言うわよ」だった。彼女は二度と私たちを捕まえなかった。そして、父にたっぷり叱られるのはになったとき、私たちは母に懇願を求める。「お父さんは本当に私を愛しているの」と尋ねたものだった。)

初步的なレベルでは、if+SVXを見れば、仮定法=却下条件を長期記憶に保存してしまい、直説法を再現しがちである。（01）では、たとえば、主節に仮定法のマーカーとなる過去形の助動詞would, could, might, shouldがないことから直説法すなわち、開放条件とわかる。ただしこのように過去形の助動詞を含む直説法の場合もあるので、読解情報の基準としての解釈上注意しなければならない。

（02）The minister was unhappy, but Henry understood. He was marrying a woman who wouldn't do things that didn't make sense, even if everyone else did them. （東北大）(牧師は不満だったが、ヘンリーはわかっていた。たとえ、ほかのだれがそうしたとしても、道理に合わないことは絶対にしない女性と結婚しようとしていた。)

（02）は助動詞 wouldn't があるが、第1文の読解情報の基準となる時制が過去であるから、第2文は直説法過去とわかる。ここでの wouldn't は、〈拒絶〉を表し、時制の一致の影響を受ける。

（03）If the advent of photography was one major turning point in the framing of modern conceptions of 'the real,' we may now be on the verge of another, equally significant turning point: with the twentieth century receding quickly behind us, we are gradually shifting from the analogue world of roll film that dominated the last hundred years to a brave new digital world where the image is coded on computer chips—whether in still cameras or in the video camera. （大阪外大）(写真の出現が「現実」についての近代的な概念の枠組みの一つの大きな分岐点であったとすれば、我々は、現在、それと同じように重要な分岐点の間際にいるかもしれない。20世紀があっという間に遠のくにつれて、この100年間で優位を占めてきた卷きフィルムに代表されるアナログ世界から、まだカメラであってもビデオカメラであっても、画像がコンピューター・チップの上で記号化される、すばらしい新デジタル世界へ向かい移行しつつある。)
If I asked how you picture life, what image would come to your mind? That image is your life metaphor. It's the view of life that you hold, consciously or unconsciously, in your mind. It's your description of how life works and what you expect from it.

(05) If you were planning a road trip across the country, would you leave without having a map? Or would you look at the map once and then forget about it? If that was your method, you would never arrive at your destination. But if you were absolutely determined to arrive at your destination in the shortest time possible, you would study the map carefully, charting out your route for each day. And if you made a wrong turn along the way, you would pull over, look at your map, and get back on track.

In some cultures, the use of a particular name is an offense. In imperial China, for instance, it was a crime to use the name of a reigning emperor. This could provide problems when the emperor's name was also a common word. If this occurred in an English-speaking country today where the emperor's name was Bill, it would be illegal to talk about a bill from the electricity company, a bill before parliament, or the bill of a bird.
(07) Until the 1960s, if you were a woman who wanted to play in a major orchestra, your best chance was to take up the harp.

That seemed to be about the only instrument women were allowed to play in the top philharmonics in the first half of the last century.

(都留文科大)

(1960年代まで、もしあなたが大きなオーケストラで演奏を望む女性であったなら、最大のチャンスはハープを始めることがあった。それは、前半の前、女性がトップクラスの交響団で演奏が許可された唯一の楽器のようであった。)

形態上、直接法であっても言語外事情によっては却下条件として解釈できることもある。 (07) では、語り手は、現在の視点から「1960年代」という過去の視点へ談話事情を移動させている。基準時間は過去であるから、読め手となる you が女性であれば、〈開放条件〉というたとえ方でよいが、読め手が男性であれば ... if you had been a woman who wanted to play ... 你的最好机会就会被用来生的哈普。应当是这个原因。ここでは破格文とするのではなく、言語外事情から「破格を超えた読み」を実践したいものである。

(08) If he says "We must meet again soon" before leaving, you will know he would rather go over Niagara Falls in a barrel than do so. Learn the lesson now: the English speak in code.

(京都府大)

(もしきり際に、「きっとまた会えますよね」と言う場合は、その人はそうするくらいなら、たるに入ってナイアガラの滝にも落ちるほんがまだったと思っているでしょう。さあ、イギリス人は暗号で話すという教訓を学びなさい。)

(08) では、主節の他動詞 know の目的語で、名詞節を導く従属接続詞 that が任意削除されている。その節内部に仮定法過去を組み込み、読手・聞き手を〈現実〉世界へ誘導するだけでなく、〈比喩〉を駆使することによって主事情のトピックを一層浮き彫りにし、文体的効果を出している。ここでは、「もう二度と会いたくないが、会うようなことがあれば、たるに入ってしまうナイアガラの滝から落ちたばらしい」という context を読み取りたい。would rather A than B は慣用語法化しがちであるが、would を用いることによって、叙述内容を「直立的」に述べることが回避され、婉曲の表現になっているという仮定法の原義を提示することができれば評論文や論説文の精読には有益である。

(09) A couple of days after Nepal’s crown prince gunned down several members of the royal family — including his parents — in a drunken rage before shooting himself, an American friend phoned me at my California home. "Isn’t that a shame," she exclaimed. “It never would have happened if the king and queen hadn’t been pushing that poor guy towards an arranged marriage. What a barbaric custom!"

(名古屋大)

(ネパールの皇太子が酔って激怒したあげく、自分との釈を含む王族数名を射殺し、銃で自殺した2～3日後に、あるアメリカ人の友人がカリフォルニアの自宅に電話してきた。「恥ずかしい話じゃないの」と彼女は呟んだ。「王様や王妃があのかいそうな男に見合い結婚を押しつけなかったらこんなことは起こらなかったのに、なんて野蛮な習慣なのでしょう！」)

(09) 仮定法過去完了で描写されている。仮定法過去完了が、過去の事実に対する仮定であるから「王様や王妃があのかいそうな男に見合い結婚を押し付けたから、こんなことが起こった」という深層事情情報を受け取れなければ読解に困る。ここでは、本来、would never have + p.p. となるところが任意調置されて never が左方に移動したこと、if 節が後置されていること、さらに従属接続詞 if の前に comma がないことが誤読の要因となっている。
(10) They would have been married sooner had it not been for David’s insistence on finding a career job before settling down.

(千葉大)
（もしデビューが身を固める前に生涯の仕事を見つけると言い張らなかったら、彼らはもっと早く結婚していただろう。）

(10) is if it had not been for David’s insistence...の従属接続詞ifの任意削除に伴う強制倒置の言語現象であるが、ifの削除に伴い、強制倒置が行われていること、さらにhadの前にcommaがないことから文構造がとらえにくくなっている。ここでは、助動詞の過去形would, could, might, shouldを伴う主節の後に、commaのないwere, had, should, couldで始まる疑問文の形が後続した場合、仮定法を疑うというreading skillsを提示しておく。

(11) Finally, if a particular species is found in a community, it obviously has some role in the community. Should that species be eliminated, whatever the role of that species had been, it is no longer precisely filled, although various competitors can and do take over parts of the role.

(お茶の水女子大)
（最後に、ある特定の種がある群で発見されても、それはその群で明らかに無理か役割をもっている。たとえもし、その種が消滅してしまうも、さまざまな競争相手がその役割の一部を引き継ぐことになるが、その種の役割が何であったとしても、もはや二度と正確にはそれが果たされることはない。）

should=「−すべき、～はず」のイメージが強すぎて、仮定法を見抜けないケースが多い。eye spanの移動とともに、If that species should be eliminatedとの同義性をイメージしたもののあ、If+S+should+動詞の原形、いは、談話情報におけるトピックの実現可能性が五分五分という前提で、話者、もしくは聞き手が「その実現可能性について低い」と思っている場合に生成される統語環境であり、実現可能性ゼロの場合には生成される。

(11)のように「たとえもし～であっても」という(議歩)の意味で解釈できることもある。なお、この形態は、if節に〈不確定〉を示すshouldが表すものであり、開放条件の場合もあるため、主節にはwillや命令形なども用いられる。英作では注意したい。

(12) Of course, if the entire nation were to be wiped out, the individuals and their families would die, but the disappearance of the nation as a social unit would not in itself pose a threat to individual or family survival; only if it were to be accompanied by ethnic violence or severe economic collapse would it be life-threatening, and such disastrous events are not an inevitable consequence of the loss of political independence. Conversely, there is no logical connection between the gaining of political independence by a subject nation and increased life chances for its citizens.

(一橋大)
（もちろん、国家全体が消し去られてしまうのなら、個人や家族も死んでしょうが、社会集団としての国家の消滅は、それ自体では個人や家族の生存にとって脅威とはならないであろう。民族的暴力や厳しい経済的崩壊が伴っている場合だけは、生命が脅かされることになるだろうが、そうした破壊的な出来事は、必ずしも政治的独立を失うことの避けられない結果ではない。逆に、従属する国家の政治的独立と、その国民の生存の可能性の増加の間には論理的な関係はない。）

(13) All that is happening in the outside world and in the life of men must arouse our interest. If we as teachers were to shut ourselves off from anything that might interest human beings, it would be a deplorable thing.

(信州大)
（外の世界や人間生活の中で起こっていることはすべて、我々の興味をひくものであるにもかかわらず、我々が教師として、人類に興味を与えるような事柄から自らを隔ててしまいそうなことがあれば、それは恥ずかしいことである。）
If + S + were to + 動詞の原形～は、仮定法過去の一種であり、話者・書き手が、現在もしくは未来における実現可能性ゼロのトピックから、やや可能性のあるトピックまでかなり広い範囲で産出される。そのため、談話情報における実現可能性を考慮して読解を進める必要がある。《予定・義務・命令・運命・可能・意図》を表す be 動詞+to+動詞の原形～と連動させて学習すると効果的である。なお、口語では、If you were to call him for me, I would be very grateful. 《私の代わりに彼に電話してもらえると、とてもありがたいのです》というように〈控えめな提案〉を表することもある。モダリティを配慮した解説も加味すると verbal communicationに直結する。

(14) The girls were also asked which of the role-models they could remember. There were spectacular examples of role-models’ jobs being translated or computed into ones that women were more likely to do: It was as if the girls did not believe the evidence of their own eyes.

（名古屋市大）（少女たちは、どの役割モデルを思い出せるかも尋ねられた。役割モデルの職種が、より女性が就きそうなものに変えられたり、算定されるといった、目を覚ますような例があった。それはあくても少女たちが自分の目で確かめたものを信じていないかのようにであった。）

as if, as though に後続する節の情報は、〈比喩〉であり、〈たとえ〉にすぎない。話者・書き手が〈非現実的トピックを描写したい場合は仮定法、〈事実に基づく可能性が潜在するトピックを描写したい場合は仮説法となる。〉(14) は仮定法過去で表現されている。It was as (it would be) if the girls did not believe ～から産出されたものと考えるとわかりやすい。

(15) Some even see such a prospect as a reason to be suspicious of science as a negative effect upon human belief in certainty, as though the construction of the physical Universe should have been set up with our psychologi-cal uncertainties in mind.

（京都大）（物理的宇宙の構築は、我々の心理的な不確実性を配慮してなされるべきであったのだ、とも言わばかりに、そのような予言を、人間が確実性に信仰を置いていっているのではないか、と疑いを抱く根拠としてすらみなす人もいる。）

as if 仮定法を後続する場合、仮定法過去（⇒動詞の過去形）、もしくは仮定法過去完了（⇒ had + p.p.）とするのが通例である。（15）では、had been set up with ... とすべきところを文意の強調のために、should have seen に置換している。should have + p.p. ～自体、〈非難・後悔・遺憾〉など、実現しなかった過去の事実を表現する形であるから、読解過程で仮定法を直感したいものである。

(16) Yet despite the appeal of these claims, which seem to strike a popular chord, many of the attacks on the media are drawn in black-and-white terms, as though there is one television experience, rather than multiple channels and programs, and one audience, rather than different types of viewers.

（千葉大）（しかし、人々の琴線に触れるような、こういった主張のアピールがあるにも関わらず、メディアに対する批判の多くは、多様なチャンネルや番組があってもテレビによる経験内容が一律であるとか、さまざまなタイプの視聴者がいても、皆、同質であるかのように、白黒が割り切った言い方でなされている。）

(16) は as though 仮定法が後続しているから〈比喩〉ではあるが、談話情報は事実に基づいたトピックになっている、as if は as though が仮定法という〈機械的〉習得ではなく、context と文の「形」に注意した読み方をしたい。